

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北陸)	◎	コンビニ（店舗管理）	・外部環境の悪さは今が底のはずである。
	◎	一般レストラン（統括）	・3月はまん延防止等重点措置期間が明け、春に向けて各種行事で人が動き、消費が多くなる時期であることから、2月よりは確実に外食需要が高くなるとみている。
	○	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染状況次第のところもあるが、少なくとも暖かくなれば、陽気次第で人の動きは回復すると考える。春にかけて行事が計画されており、1つでも実施できれば、明るさが出てくるとみている。新型コロナウイルスによる重症者が少ないためか、危機感は余り感じない。
	○	一般小売店〔事務用品〕（店長）	・これから春に向けて、新生活に必要な物の購入が増えることを期待している。
	○	旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルスに新たな変異株が出てくればお手上げだが、新型コロナウイルスオミクロン株の感染が収まれば少し平穏な期間が訪れると信じている。現状では新規感染者数もやや減少傾向にあるので期待している。
	○	タクシー運転手	・数多くの人が3回目のワクチンを接種し、新規感染者数が減少していくとみられ、現在より良くなると考える。
	○	通信会社（営業担当）	・他社からの乗換え客に対して価格競争が始まっており、客の購買意欲が高まっていることから、販売台数も増加してくると考える。
	□	商店街（代表者）	・若者世代を中心に観光客は増え始めたが、まん延防止等重点措置が解除されない限り、本格的な回復には程遠い。また、前回解除された際には商店街で買物クーポンによる支援があったが、当店で使う人はいなかった。Go To Travelキャンペーンの開始を望んでいる。
	□	一般小売店〔精肉〕（店長）	・豚肉やとり肉の動きはそのまま継続するとみている。牛肉はギフト需要等が出てくれば良くなると期待しているが、このままの状態が続くと考える。
	□	一般小売店〔鮮魚〕（役員）	・根本的に新型コロナウイルスの感染が収束しないと景気は戻らないと考える。沖縄など一時的にまん延防止等重点措置が解除されても、再び感染が広がる傾向は続くとみている。
	□	百貨店（売場主任）	・ロシアのウクライナ侵攻により世界経済にどのくらいの影響が出るのか見通せない。また、2～3か月先では3回目のワクチン接種が進んでいるとは考えにくいので、国内経済の景気回復にはしばらく時間が掛かると見込んでいる。
	□	百貨店（販売担当）	・来客数は大幅に改善しないと予測しているが、新型コロナウイルスへの慣れと感染の軽症化傾向でやや安心感があるため、大幅に悪化もしないとみている。入社式や卒業式などの式典が通常開催されることや、それに伴うギフト需要の拡大で、新入学、フレッシュャーズなどのモチベーション需要は前年より拡大傾向を見込んでいる。根拠としては、食催事などにおける来客数の減少が少なかったからである。しかし、売上は改善傾向にならず、厳しい状況のまま現状維持がしばらく続くとみている。
	□	コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況次第である。
	□	衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルス感染症はウイルスが変異しながら感染拡大しており、しばらくはウイルスと共存しながら、辛抱していくしかないと考える。
	□	衣料品専門店（経営者）	・社会の消費動向次第だと考える。
	□	家電量販店（本部）	・新型コロナウイルス変異株による新規感染者数は減少していくとみているが、来客数が戻るとは見込めない。また、ガソリン価格の高騰や日用品の値上げ等で景気回復は難しい。
	□	乗用車販売店（経営者）	・新車を購入する客の動向は、まだ悪い状況にあるとみている。業界全体もこのような状況が続いていることから、業況は変わらないと考える。
□	乗用車販売店（従業員）	・今冬は大雪の日が続き、しかも、新型コロナウイルス新規感染者数の増加もあり、来客数がかかり落ち込んでいる。	
□	住関連専門店（役員）	・海外からの商品や部材の入荷遅れ、ウッドショックによる原価高騰、ガソリン等生活用品や食品の値上げなど、プラスに動く要素がなく、打破する施策も講じきれしていない。	

□	その他専門店〔酒〕（経営者）	・ロシアのウクライナ侵攻や継続する原油価格の高騰などの世界情勢により、国内の物価は上昇し続けている。いろいろなものの価格が上昇している状態で良くなるはずはないが、先行きは変わらないと希望的観測をしている。
□	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大のピークがみえず、長引くことを懸念している。
□	高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルスの影響による団体利用や県外からの受注減少もあるが、来月7日に知事選挙と同日市長選挙を控えていることから、まん延防止等重点措置解除後の地元法人関連からの受注が全く入ってこない。
□	一般レストラン（店長）	・県内ではまん延防止等重点措置が延長になり、影響がいつまで続くか分からない。
□	都市型ホテル（スタッフ）	・まん延防止等重点措置が早く解除され、新型コロナウイルスの終息がみえてくるまでは、旅行も宴会もレストランも新型コロナウイルス発生前には戻らない。新型コロナウイルスの発生から3年目になり、厳しい状況である。
□	通信会社（営業担当）	・2～3か月後は新入学の時期、並びに新商品の発売時期も終わっており、大きく変化する要因が見当たらない。
□	通信会社（役員）	・現状では、変動する兆候が見受けられない。ただし、半導体不足等による設備や機器等の構築、購入遅延により影響が出る懸念はあると考える。
□	テーマパーク（役員）	・現状のように、新型コロナウイルスの感染拡大で人流を止めるような政策を繰り返している限り、状況はさほど大きく変わらないと考える。
□	美容室（経営者）	・新型コロナウイルスオミクロン株の亜種が国内で検出されたほか、ウクライナ問題の報道もあり、先行きに明るい希望が持たなくなっている。
□	住宅販売会社（従業員）	・2月に予定していたイベントは全て中止となり、新規の見込み客は少ない。商談については、展示場やショールームをいかに早く案内できるかで、少ない見込み客の契約が進むかどうかが決まってくる。新型コロナウイルスの影響はまだ大きく、予定どおりに契約は進まないとみている。
□	住宅販売会社（従業員）	・低金利や補助金等の有利な条件がそろっており、コロナ禍での活動についても有効な動き方がみえてきている。しかし、国際情勢がどのように影響するか心配している。
□	住宅販売会社（従業員）	・新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いた限り、景気回復は難しいと考える。
▲	百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルスの影響にプラスして、食品や生活用品など生活必需品の値上げがあり、衣料品等へのマイナス影響が出るとみている。ゴールデンウィークの旅行予約も控えめで、仮に新型コロナウイルス感染症が終息しても大きな回復にはつながらないとみている。
▲	スーパー（総務担当）	・商品の価格高騰が止まらない状態で、利益が取りにくい状況になっている。
▲	スーパー（仕入担当）	・値上げが続き、競合店との価格競争に巻き込まれると、今後も買上点数の減少による売上減少が進むと考える。
▲	スーパー（店舗管理）	・ワクチン接種の進捗状況による影響も考えられるが、高齢者の来客頻度は確実に落ちている。また、日祭りの家族連れでの来店も減少傾向である。値上げの影響が大きく、ポイント付与日と通常日で非常に差が出ており、費用対効果が厳しくなっている。
▲	スーパー（統括）	・新型コロナウイルスオミクロン株による感染の収束状況次第である。
▲	コンビニ（店長）	・新型コロナウイルスに感染したという話をちらほら聞くようになってきている。新規感染者数の増加により外出自粛を徹底する客がここ2年多かったため、報道で新規感染者数が多くなるにつれて、週末や夕方から深夜の売上が再び激減する可能性が高いとみている。また、今月の売上が良かったのは単に前年が悪すぎたためかもしれないので、来月以降はやや悪くなるとみている。
▲	家電量販店（店長）	・半導体不足により、省エネ型給湯器などの単価の高い商品の入荷が見込めないため、売りにくい状況である。

	▲	乗用車販売店（役員）	・新たな変異株の出現による感染拡大の長期化や、ロシアのウクライナ侵攻による世界経済の混乱を予想する。国内においても原油価格の高騰による各種値上げが続き、消費が更に冷え込んでいくことを懸念する。
	▲	自動車備品販売店（役員）	・車の商談は例年並みだが、納車時期が不透明で客が中古車を選択するケースが増えている。この先の景気に大きな変化はなく、この状態が日常生活であると捉える転換期になると考える。
	▲	スナック（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況や対外的な様子からまだ厳しさを感じるが、2～3か月先は少しでも良くなっていると期待したい。
	▲	通信会社（職員）	・新型コロナウイルスの感染状況は一進一退、ウクライナ情勢から原材料不足もますます深刻になりそうで、商品や部品の納期や供給に更に遅れが出そうな状況である。
	▲	通信会社（役員）	・半導体不足による通信用端末の供給が滞り始めることが予想されており、営業活動に制限が出てくる可能性がある。
	▲	パチンコ店（経理）	・ロシアのウクライナへの侵攻により情勢不安となり、物価が上昇し景気が悪くなるとみている。
	▲	その他レジャー施設 [スポーツクラブ]（総支配人）	・まだまだ県内はピークアウトになりそうになく、スタッフの確保も含めて日々緊張した状況が続くとみている。燃料費は上限がないくらい高騰し続けており、売上減少、経費増加の状態が続くと考える。
	▲	住宅販売会社（営業）	・ガソリンの高値維持やウッドショックを始めとした建築資材の高騰による景気への影響は避けられない。消費マインドを刺激するような対策がない限り、景気の落ち込みは避けられないと考える。
	×	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染状況にピークアウトの兆しが一向にみえない。また、これといった対策もないため、この傾向は今後もしばらく続くと考え。人出が激減しており、正に危機的状況である。
	×	一般小売店 [書籍]（従業員）	・原油や小麦粉関連の食材、輸送コストなどありとあらゆるものが値上げ傾向となって家計を直撃しており、このような状況では、景気は悪くなるとしか考えられない。
	×	スーパー（店長）	・賃金が上がらないなか、食品を含め値上げが実施されれば景気は悪化すると考える。当地域では新型コロナウイルスの新規感染者数は高止まりが続いており、スーパーとしてはプラスに動く面もあるが、全体としては悪い状況が続く。
	×	衣料品専門店（経営者）	・消費へのマイナス要因はほかにも金利の上昇が考えられる。
	×	観光型旅館（スタッフ）	・前年のように全面キャンセルではなく、新規の予約も人数は少ないが発生している。まん延防止等重点措置の早期解除を待っている。
	×	都市型ホテル（役員）	・3月に市内で新規ホテルが2棟オープンし、市内の客室数が10%増加する。新型コロナウイルスの感染拡大の影響により宿泊需要が低迷するなか、他ホテルとの価格競争による来客数や販売価格の低下を懸念している。
	×	タクシー運転手	・現在、小学生等の低年齢層に新型コロナウイルスの感染が拡大していることから、その親や兄弟も外出できなくなっている。
企業 動向 関連 (北陸)	◎	—	—
	○	建設業（経営者）	・5月下旬には新型コロナウイルスの感染も収まるとみており、業界団体の総会と懇親会を開催する予定である。
	○	輸送業（管理会計担当）	・新型コロナウイルスオミクロン株による感染がピークアウトし、物量の回復を見込んでいる。
	○	不動産業（経営者）	・客の話では、現状に新型コロナウイルスの感染が影響しているのであれば、少しずつ回復してくるだろうという前向きな考えが出てきているようである。
	□	化学工業（総務担当）	・今後も受注は変わらずに推移する予定である。
	□	金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注状況から変わらないと考える。
	□	一般機械器具製造業（経理担当）	・オートバイの部品関係において、引き続き受注は旺盛であるが、特に北米輸出向けの船便の手配が困難となっており、かつ、輸送費も高騰しているため、今後の生産体制等の見直しを強いられる可能性が高くなってきている。

	□	通信業（営業）	・現状の好調な設備投資は4月末まで継続すると推測している。しかし、半導体不足の影響により、受注は増加するものの納品までに至らないことを不安視している。
	□	金融業（融資担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしており、飲食や観光関連産業が伸び悩んでいる。原油や原材料価格の上昇が企業収益を圧迫している。価格転嫁の動きもあるが、消費意欲の低下につながるおそれがある。ウクライナ情勢も不透明で、ロシアや欧州向けのビジネスに影響が出る可能性がある。
	▲	食料品製造業（経営企画）	・受注や販売は好調だが、それに応えるための労働力の確保と同時に原材料や燃料コストの上昇など、台所事情は悪化し続けている。
	▲	繊維工業（総括）	・外国人技能実習生を中心とした人手不足や原材料価格の高騰に更に拍車がかかることへの懸念に加え、新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大とウクライナ情勢悪化による影響を懸念している。
	▲	プラスチック製品製造業（企画担当）	・日本を含む世界的な新型コロナウイルスオミクロン株による感染拡大、及び海外の政情不安なども重なり、景気はなかなか本格的に回復しないと考える。
	▲	一般機械器具製造業（総務担当）	・ロシアとウクライナの対立による世界情勢の混乱が、日本経済においても影響を及ぼすと考える。
	▲	精密機械器具製造業（役員）	・水準としては現在はそこそこである。ただし、例年であれば春先に向け売上が伸びていく時期にもかかわらず、新型コロナウイルスによる感染のピークアウトの状況やウクライナ侵攻の間接的な影響の不透明さもあり、どちらかといえば負の要素が強いと考える。
	▲	建設業（役員）	・依然として原材料価格が先行き不透明であることに加え、新型コロナウイルスの感染収束がみえず、世界情勢も不安定である。
	▲	司法書士	・B to Cに加え、B to Bにおいても、燃料費の高騰や材料不足、技能実習生の不在など、先行きの不安を話す依頼人が多い。
	▲	税理士（所長）	・この数か月で状況が良くなった中小企業の製造業は全くない。現在の国際紛争により、物流が滞ることや輸入品の価格が上昇することも考えられる。材料が値上がりしても、販売価格に転嫁しづらい部分があると利益に結び付かないため、全体的に冷え込んでくる可能性が大きいと懸念している。
	×	輸送業（役員）	・世界情勢不安のため、悪くなる。
	×	金融業（融資担当）	・新型コロナウイルスオミクロン株、資源価格の高騰に加えてロシアのウクライナ侵攻が始まり、動向の注視が必要である。
雇用 関連 (北陸)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	・求職者の動きは活性化傾向にある。ただし、求職者側に選択の余地がある状況が多く、マッチング自体は少ない様子である。新型コロナウイルスの感染が収束に向かうタイミングと、求職者数の増加傾向により景気は良くなると考える。
	○	新聞社 [求人広告]（営業）	・新型コロナウイルス次第の面はあるが、各企業に意欲はあるように感じるので、期待している。
	○	職業安定所（職員）	・ワクチン接種が進めば新型コロナウイルスの感染状況は少し落ち着く。しかし、ゴールデンウィーク明けにはまた世の中は混乱すると考える。ロシアの動きによるガソリン価格の状況次第だが、若干良くなるとみている。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・大きな雇用の動きがない。
	□	新聞社 [求人広告]（担当者）	・県内での新型コロナウイルスの感染拡大が止まらず、先行きが見通せない。
	□	職業安定所（職員）	・新型コロナウイルス第6波がピークアウトしても、経営が厳しい事業所が多いため、大幅な求人数の増加にはつながらないと考える。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の今後は見通せないが、収束傾向になれば生産や投資、求人も活発になってくるとみているので期待したい。
	□	学校 [大学]（就職担当）	・求人数について、状況が変わる要素や気配が見受けられない。
	▲	—	—
×	—	—	